



感染対策チームのラウンドの様子

感染管理は、医療現場の患者・家族・訪問者や医療従事者など、全ての人を対象に医療関連感染から守るための組織的活動といえます。現在、当院の感染対策は、院内感染防止対策委員 30 名と感染対策チーム (ICT) の 11 名で構成されたメンバーで活動しております。

この度、感染管理認定看護師の教育課程を経て資格を取得し、「感染管理認定看護師」としてチームに参加する機会を頂きました。多職種との横断的な活動の中で、互いの専門的な知識・技術・経験をもとに連携しあう「チーム医療」の重要性を改めて感取できました。

重点的な活動の一つに「院内ラウンド」があります。病棟を中心に各部署のラウ

感染管理認定看護師としての役割

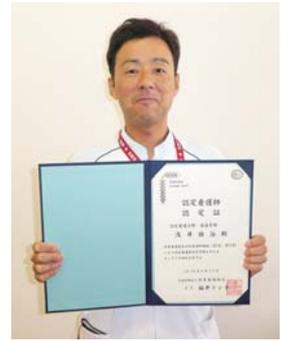
感染管理認定看護師 浅井 雄治

ンドを自分で行うことで、より正確な現状把握ができ、病棟に潜んでいる問題点や病棟間で生じている格差に気付くことができます。さらに各部署に配置されたリンクナースとの協働により、細やかな感染予防と管理が実践できると考えています。

また、今年度より院内に「抗菌薬適正使用支援チーム (AST: Antimicrobial Stewardship Team)」が発足し、感染症の効果的治療、副作用防止、耐性菌出現のリスク軽減のための抗菌薬適正使用に取り組んでいます。院内感染管理支援システムにより、リアルタイムにどの部署からもマッピングした感染情報の閲覧が可能なサーベイランスを行い、データの共有や院内のチーム連携による質の高い感染防止対策を目指しております。

院外活動では、地域の医療施設と感染対策や抗菌薬適正使用推進に関する合

同カンファレンスを実施し、施設ラウンドや相互に指導・相談を行うことで、プラスの成果となるよう、地域全体で感染制御の改善に努めています。



感染管理は「チーム医療」として組織的に活動することで、感染防止対策の推進につながります。病棟のリンクナースとともに、多職種間でのコーディネート役割を担い、「いつでも、どこでも、何でも」相談しやすい環境が作れるように、認定看護師としての自覚を持ち邁進してまいります。どんな些細なことでも、お気軽にご相談ください。

抗菌薬適正使用支援チーム(AST)について



AST カンファレンスの様子

本年度の4月から、当院にて抗菌薬適正使用支援チーム (Antimicrobial Stewardship Team: 以下 AST) が発足しました。これまでも、当院では感染対策チーム (Infection Control Team: 以下 ICT) を組織して、感染対策に取り組んできました。しかし近年、微生物の薬剤耐性の増加が非常に懸念されており、感染を防ぐだけでなく、薬剤耐性を減らすことも求められています。

最近、「風邪には抗菌薬が効かない」といったニュースを聞いた方もいらっしゃるのではないのでしょうか。そういった、必要のない場面での抗菌薬の使用など、抗菌薬の不適切な使用は、薬剤耐性の

抗菌薬適正使用支援チーム専従
薬剤部主任 鶴本 央子



リスクを増やしてしまいますし、場合によっては感染症が悪化する可能性もあります。

薬剤耐性を増やさないため、減らすため、また感染症の治療が奏効するように、「抗菌薬を正しく使おう!」という目的で作られたのが AST です。業務内容は ICT と関連が深いので、チームメンバーは ICT のメンバーが兼任しています。

感染症の治療は、どの診療科でも切り離せない分野ですが、一言で感染症と言っても、原因となる微生物にはたくさんの種類があります。抗菌薬も当院だけで採用薬は 80 種類以上に上ります。薬剤耐性のある菌が懸念される場合は、それらも考慮しなければなりません。また、その耐性菌の発現などによって、一昔前と今とで推奨されている抗菌薬が異なる感染症もあります。

このように、時に複雑な感染症治療の一助となるべく、AST では、図 1 の条件に当てはまる患者さんについて、感染症

治療の状況をモニタリングしています。そして、「抗菌薬の選択や検査の実施が適切かどうか」、「抗菌薬が効いているか」、「投与期間が適切か」などを、チームカンファレンスにて評価を行い、必要に応じて、主治医へ情報提供等を行っています。

AST が発足し、その専従を務めて約半年が経ちました。初めての取り組みに戸惑い、自身の知識不足を痛感する日々でしたが、ようやく業務の流れができてきました。院内での感染症治療に貢献できるよう、今後も努力してまいります。抗菌薬に関して質問等がございましたら、お気軽にお声掛けください。

図 1. AST モニタリング対象要件

- 耐性菌が検出された患者
- 血液培養が陽性の患者
- 特定の抗菌薬を使用中の患者